

事務事業調書

平成26年度

事業No	250	課	子育て健康部	係	子ども課	起案者	磯村真人
						決裁者	杉浦多久己
事務事業名	サルビア学園事業				事業種別	市民サービス	

1 事業概要

総合計画体系	2 健康で安心して暮らせる環境づくり 2 社会福祉 5 障害福祉 2 在宅福祉 1 在宅介護サービス				予算科目(会計)		一般会計	
					予算科目(款・項・目)		15-10-20	
					総合計画以外の計画		障害者福祉計画・次世代育成支援行動計画	
					関連する総合計画の施策		2-2-5-1-3	
					性質区分		市の内部事務事業	
根拠法令	有	児童福祉法						
法定受託事務	無							
公約・議会答弁	無							
陳情・市民要望	無							
実施方法	直営		委託先					
実施期間	開始	昭和50年度		経過	39年目		終了	期間
求める成果 (目的)	誰(受益者)が		知的障害のある幼児が			~になる		適切な療育支援を受ける環境が整う
事務事業の内容	知的障害のある幼児を日々保護者のもとから通園させ、保護するとともに、日常生活に必要な基本的ことがらを身につけられるよう指導育成し、社会生活への対応能力を養うことを目的としています。							
改善・対策の履歴	平成18年10月から障害者自立支援法により措置から契約に変更しました。 平成20年4月から組織変更により子ども課から障害福祉課に所管が変更しました。 平成21年4月から安城市福祉事業団の指定管理から市へ移管しました。 平成24年4月から児童福祉法改正により知的障害児通園施設から児童発達支援センターに変更しました。 平成24年4月から機構改革により障害福祉課から子ども課に所管が変更しました。 平成25年4月から定員を30人から40人に変更しました。							

2 事業費(千円)、人員推移(人)

項 目	平成23年度	平成24年度	平成25年度		平成26年度
	(実績)	(実績)	(予算)	(実績)	(予算)
総事業費	85,633	84,914	107,352	104,664	132,879
財源計	35,233	34,514	43,722	41,034	62,949
財源の内訳	国庫支出金	0	14,548	9,010	5,607
	県支出金	28,573	7,274	4,505	2,803
	市債	0	0	0	0
	その他()	1,180	1,348	3,345	3,677
	一般財源	5,480	11,344	26,862	50,862
受益者負担金	813	967	2,400	1,457	2,700
職員人件費 (従事職員数)	50,400 (8.00)	50,400 (8.00)	63,630 (10.10)	63,630 (10.10)	69,930 (11.10)
人事課予算分 人件費	0	0	0	0	0

3 各活動にかかるコスト

			年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
活動1	活動名 (活動内容)	サルビア学園入園児童数	見込	35.00	34.00	40.00	40.00
			実績	35.00	36.00	45.00	
	指標名 (単位)	利用人数(人)	活動の総事業費 (千円)	85,633	84,914	104,664	
			活動にかかるコスト (千円)	2,446.66	2,358.72	2,325.87	
活動2	活動名 (活動内容)		見込				
			実績				
	指標名 (単位)		活動の総事業費 (千円)				
			活動にかかるコスト (千円)				
活動3	活動名 (活動内容)		見込				
			実績				
	指標名 (単位)		活動の総事業費 (千円)				
			活動にかかるコスト (千円)				

4 成果指標と実績の推移

指標名(単位)				年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
成果1	サルビア学園待機児童数(人)			目標	0.00	0.00	0.00	0.00
				実績	0.00	0.00	0.00	
	目標達成年度	平成31年度	目標成果指標値	0.00	達成状況	達成	達成	達成
				目標				
成果2				実績				
	目標達成年度		目標成果指標値		達成状況			

5 成果1、2以外の成果

成果	障害特性に合わせて、個別のかつ集团的に、早期に適切な療育や訓練等を受けることができました。臨床心理士等の専門相談や保育士の保護者支援により、家族の不安解消や前向きな子育てにつながりました。
----	--

6 各活動にかかるコストと成果の分析

内部の取組や外部要因が与えた影響、課題等	
活動コスト	活動の総事業費は増加したものの、定員増加による利用者の増加により、コストが低下しました。 園児一人ひとりの障害特性の分析に発達支援チェックリストを作成し利用したことで、子どもの発達状況の明確化を図ることができ、分析スピードの短縮、事務効率の向上につながりました。
成果	定員増加による利用者の増加により、待機児童数＝0人の目標を達成することができました。 園児の障害特性の分析に発達支援チェックリストを作成し利用したことで、子どもの発達状況の明確化及び個別支援計画の充実につながり、一人ひとりの特性に合わせた個別の支援につなげることができました。 作業療法及び言語療法の専門職による個別訓練により、園児及び保護者への支援をすることができました。 言語作業療法等の各クラスへのグループ指導により、職員の資質向上につながりました。

7 所属長の改善案

コスト・成果について、事業の分析を踏まえた具体的な改善案
定員のこれ以上の増員は、施設及び人的要因により難しい状況であるので、今後は療育内容の充実に重点を置く必要があると考えられます。療育内容の充実方法は様々ですが、園児への直接的サービスのみでなく、園児を取り巻く間接的支援を充実させることも重要であり、保護者支援や園児にかかわる支援者の連携の充実などを推進します。

8 方向性

必要性、効率性、有効性を踏まえた事業の方向性	
維持・継続	障害児の早期療育の観点から、セーフティネットとして欠かすことができない事業であり、さらに専門性を高め、きめの細かい個別のかつ集团的療育支援体制を継続します。